

出資3社の社長も出席

JTLが出発式

「大きな夢もった小さな会社」

トナミホールディングス(綿貫勝介社長、第一貨物(武藤幸規社長)、久留米運送(二又茂明社長)の3社合弁による幹線運行会社ジャパン・トランス・ライン(JTL、坂田昭雄社長)は3日から事業を開始するのに伴い、東京・大田区の京浜トラックターミナルで出発式を開催した。

JTLは今年4月2日に出資金6千万円(第一貨物とトナミHDが40%、久留米運送が20%)で設立、7月26日付で一般貨物自動車運送事業の

許可を受けた。本社を京浜トラックターミナル管理棟2階に置き、従業員は14人(第一貨物から7人、トナミから7人、うちドライバーが12人(第一貨物から6人、トナミから6人、車両12台(第一貨物から6台、トナミから6台)の規模。当面は出資3社の東京・関西間の運行業務を受託し、東京では京浜や豊西等のトラックターミナルを、関西ではトナミ運輸や第一貨物のターミナルを拠点としてトラックを運行する。共同運行は東京発の貨物のみで行い、24年度の売上高は1



億円を見込んでいる。将来的には事業領域の拡大や事業会社間のインフラ機能共用なども視野に入れ、順次事業を拡大していく考えとしている。

出発式には出資3社の社長らが出席。その中で主催者代表としてあいさつした坂田社長は、「当社は大きな夢をもって誕生した小さな会社。出発式は第一歩で、いろいろなことをやりたい夢もっているが、夢を実現するにはたくさん困難が予想される。関係者と一緒に協議しながら進めていきたい」と抱負を述べながら、「当社は誕生したばかりの未熟な赤ちゃん。森の中を迷いながら出口に導いていただきたくら進んでいくことになる」として、関係者の協力を求めた。

①ドライバーと記念撮影する(前列左から)二又社長、武藤社長、坂田社長、綿貫社長 ②出発するトラックを拍手で見送った

テープカットに続いて用意された6台の車両が次々に発車し、各社長らが笑顔と拍手で新事業の門出を祝った。出発式に参加した第一貨物の武藤社長は、「交通事故と荷物事故を起こさないよう願いたい。運行開始をきっかけとして、今後発展してほしい」と期待感を表した。